

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

三石小学校 堂本恭平

1. 単元名 防災マスターになろう

2. 単元の目標

- ・防災についての知識を高め、災害時に自分で判断し、最善の行動の仕方を理解することができる。
- ・友だちと協力し、三石台防災マップを作ることができる。
- ・助け合いやボランティア精神など、「共生」の心をはぐくみ、人間としての在り方・生き方を考えることができる。

3. 単元について

災害は、極限の持続不可能性であり、防災・減災教育を行うことは、持続可能な社会をつくっていくためにとっても大切なことである。小学校の高学年においては、地震や地震による二次災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなくほかの人々の安全にも気配りができるようにすることが大切である。そのためには、大きな地震の状況を実感として受け止めさせるとともに、地震により発生する二次的な災害（火災等）が発生する仕組みや、避難所での生活についても十分に理解させる必要がある。

今後起こる可能性の高い東南海・南海地震を知っている児童は多い。しかし、学校外で起こった際の避難する場所を知っている児童は %、一人で避難できる児童は %であり、家族と連絡の取り方を決めている児童は %と少ない。

本単元では、「防災マスターになろう」というテーマで取り組む。地震や津波の怖さ、地震から身を守る方法について家庭や地域の人に発信しようという活動は、問題の解決に向けて児童が主体的に取り組むことができる活動である。また、調べ、まとめ、発信するという活動を通して、児童の情報収集力・表現力を養い、課題解決能力を高める。さらに、児童の防災に対する実践力を養い、みんなのために活動しようとする態度を養う。

この実践により、批判的に考える力（避難所での生活を考える）や未来像を予測して計画を立てる力（三石台防災マップづくり）、つながりを尊重する態度（家庭や地域の人に伝える）を特に重視して指導していきたい。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地震のメカニズムや震度、マグニチュード、津波等について理解し、災害時により安全な行動の仕方を理解している。	避難方法を想定したり、三石台の防災マップを作ったりしながら、安心・安全な生活について考えている。	自分や家族の安全な生活のあり方を意識し、実践しようとしている。

5. 単元展開の概要（全9時間）

主な活動	学習への支援	◇評価・備考
1. 学校内の身近な防災設備について考える。	校内マップを準備し、効率よく調べられるようにする。	防災についての意識を高めることができる。
2. 家庭や学校における防災の取り組みについて調べる。	学校内にある防災倉庫の中に入っているものを見学できるようにする。	三石台の住民と防災倉庫に入っている物資を関連づけて見学することができる。
3. 地震のメカニズムについて調べる。	インターネット「子ども技術白書7 指令！地震災害を究明せよ」を活用する。	地震のメカニズムについて知ることができる。
4. 地震を体験する。	起震車に来てもらう。	実際起こったときにどのような状況になるか予測することができる。
5. 避難所での自分たちにできる生活を考える。	避難生活の不便さや苦勞について理解を深めるために映像などを準備する。	避難所生活で自分たちにできることについて考えることができる。
6. グループに分かれて地域の防災設備や危険箇所を調べる。	三石台のマップを準備し、マップにまとめることができるようにする。	三石台防災マップに必要な情報を集めることができる。
7. 調査した内容をもとに、三石台防災マップを作る。	防災用施設や設備、避難場所、危険箇所がわかるようにまとめさせる。	三石台防災マップづくりにおいて友だちと協力することができる。
8. これから自分たちができることをまとめる。	今までの学習をふり返り、防災・減災のために自分たちができることを話し合えるようにする。	家庭や地域の方に伝えるようなまとめをすることができる。
9. 家庭や地域の方に伝える。	家庭や地域の方に来ていただき、防災・減災について連絡を図ることができるようにする。	相手を意識し、自分たちの考えを伝えることができる。